

他自治体が受け付けた事例

聴覚・言語障害

事例 1

内容：日常生活で相手の口の動きから話している内容を読み取っていたが、マスクの着用で相手の口の動きが確認できず困っている。

対応：透明なマスクやフェイスシールドを着用して案内した。それらが無いときは、メモ、ホワイトボードを使って案内した。

事例 2

内容：授業を受けるときに先生の口の動きで内容を読み取っていたが、先生がマスクを着用していると口の動きが読み取れない。

対応：教員は透明なマスクやフェイスシールドを着用して授業を行うようにした。また、体育館の講演会では、前方に座ってもらい、講演者との間は透明シートで仕切るようにした。

肢体不自由

事例 3

内容：会計後に袋に商品を入れる際、感染防止のためにレジ袋を自分で開けることとなったが、自分で袋を開けるのが難しいので困っている。

対応：一律に断るのではなく可能な範囲で対応することとした。

内部障害、難病に起因する障害

事例 4

内容：難病に起因する障害があるが、商業施設で買い物をした際、今までは購入したものを袋に入れてくれていたのに、「入れられない」と断られた。

対応：「新型コロナウイルス感染症対策で入れることができなくなった」という理由を伝え、使い捨て手袋を用いて袋に入れるなど感染症対策に理解を求めるようにした。

事例 5

内容：呼吸器を使用しているため、マスクの着用が難しい。新型コロナウイルスの感染リスクに対する不安がある。

対応：本人と上司で話し合い、在宅ワークを導入することとした。

事例 6

内容：仕事の内容により、テレワークができずに出勤の必要がある。基礎疾患があるため、通勤時の感染が不安である。

対応：新型コロナウイルスの感染防止の観点から車での通勤を認めた。

精神障害

事例 7

内容：授業がオンデマンドとなり科目ごとに課題を提出することになった。これに対応できず、授業の出席や課題の提出等ができない。

対応：スクールカウンセラーによるカウンセリングを行い、課題の提出期限を延長する、提出状況を本人と保護者に連絡するなどの対応を行った。

事例 8

内容：オンライン授業が増え、自分に対するパソコンの中からの視線に恐怖が強まり、講義を受講できなくなったので、カメラ機能をオフにしたい。

対応：授業担当教員に授業配慮願を提出し、カメラ機能をオフにすることを認めた。

発達障害

事例 9

内容：発達障害とともに特定の場面や人に対して言葉を発せられないときがあり、授業がオンラインで行われた際に質問をチャットで書き込んでいたが、担当教員に気付かれず困っている。

対応：各授業を担当する教員に対し、学生の障害について事前に伝達していた内容に加え、オンライン授業における不都合について伝え、チャットでの質問を確認するようにした。

事例 10

内容：生活リズムが乱れやすい、見通しを立てて計画的に行動することが難しいなどの障害特性がある。このため、リモート授業が中心になると、出席が困難になり、オンラインによる教材の視聴や課題提出も滞ってしまう。

対応：リモート授業の受講やオンライン教材の視聴をするための自習室を提供し、課題に取り組むことができるようにした。